

佳作 小さな紙に込められた幸せ



カオ ホン カイン ガン
CAO HONG KHANH NGAN
国 籍 ベトナム
職 種 そう菜製造業
実習実施者 大徳食品株式会社札幌事業所
監 理 団 体 公益財団法人日中技能者交流センター

私が初めて「日本で働いてみたい」と思ったのは、二〇一四年ごろのことです。そのころ、ベトナムで初めてイオンがで、その中にある日本料理店でアルバイトをしていました。そこで働きながら、日本の文化や働き方に興味を持つようになりました。

そして二〇一五年には、日本語の勉強も始めました。しかし、一か月ほど勉強したころ、ベトナムで自分が学んだことに関係する仕事をするようになりました。そのころの私は、日本へ行くためのお金も十分ではなかったで、まずはその仕事を頑張ることを選びました。

それでも、日本への興味はずっと心の中にありました。そして二〇二四年、私は仕事を辞めて、技能実習生として日本へ来ました。

私にとって幸せとは、結果ではなく、努力する過程の中にあると思います。

来日したばかりのころは、日本人が何を言っているのか分からないことがよくありました。特に仕事中は、何度も聞き返すのが申し訳なくて、不安になることもありました。

そんな時、私は分からない言葉や表現を、日本人の方に小さな紙に書いてもらっていました。そして、その紙

を家へ持ち帰り、何度も読み返して覚えました。急いでいる時には自分の手に書くこともありました。

今思えば、その小さな紙は、ただのメモではありませんでした。それは、私が少しずつ前に進んでいた証拠だったと思います。

会社の課長が仕事のことを書いてくださったメモも、私は今でも大切に取ってあります。課長の字はとてもきれいで、見るたびに「もっと頑張ろう」という気持ちになります。また、同僚がお菓子をくれる時に、カードやメッセージを添えてくれることもあります。

その一言に、私は何度も励まされました。

私にとって、それらの小さな紙は宝物です。

そこには「教えてくれた時間」や「気にかけてくれた気持ち」が残っているからです。

日本へ来てから、私は仕事だけでなく、生活の中でも多くのことを学びました。ごみの分別や時間どおりに来る電車やバス、近所の人たちとの会話など、毎日の中に小さな発見や喜びがありました。

来日してから一年半がたち、私は日本語能力試験N3に合格することができました。その時は本当に嬉しかったです。でも、今振り返ると、一番の幸せは合格そのものではありませんでした。

分からなかった言葉が少しずつ分かるようになったこと、自分の言葉で会話ができるようになったこと、街の漢字を少しずつ読めるようになったこと。そのような小さな積み重ねこそが、本当の幸せなのだと思います。

難しい時こそ、「挑戦だ」と思うようにしています。これからも日本語の勉強を続けながら、今まで受け取ってきたやさしさを、いつか自分も誰かに返せる人になりたいです。